

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103466
法人名	有限会社 ケイ・エム・エス
事業所名	グループホーム さしもも
所在地	松山市高岡町617番地
自己評価作成日	平成 28年 2月 12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 3月 3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅街の中に建ち、民家改造型ユニットと近代的建物ユニットの2ユニットである。家庭的、機能的な構造でユニットそれぞれに特徴があり母体である病院も近くにあり、24時間対応で利用者様、家族様も安心して暮らしておられる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は民家を改修したユニット①と新築されたユニット②で構成される。協力医療機関でもある母体医療機関が近くにあり、定期的な往診による健康管理のほか、体調の変化に応じ24時間連携が取れる。日々の健康管理とあわせ確実な医療連携は、利用者や家族、勤務する職員にとっても安心感が高い。民家を改修したユニットの浴室はこの度シャワーシステムをリフォームし、より利用者にとって生活が楽しみになるよう改修がされた。職員はそれぞれに介護経験も違うが、それぞれに利用者のことを思い、あたたかい気持ちで接している。次年度には新人職員が雇用され、今後の成長や職員のアイデアを活かした運営への意欲的取組みが楽しみである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム さしも

(ユニット名) ユニット①

記入者(管理者)

氏名 泉内 勝

評価完了日 平成 28年 2月 12日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 分かり易い所に理念を掲げて、それに基づいて職員が一丸となって地域へのサービスを展開する。</p> <p>(外部評価) 事業所理念は開設時に「信条」として掲げ、事業所内に掲示し共有している。職員は就業前に唱和し信条を理解することができている。利用者の生活を支えるために、品位ある職員像を目指し、理念を運営へとつなげている。事業所では職員同士の調和を大切にしていきたいと考えている。職員は信条に沿い日頃の業務を振り返ることが個々にできている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 散歩や買い物時には、地域の方と挨拶を交わして、地域の行事（地方祭・餅つき）に出かけて交流している。</p> <p>(外部評価) 地域の民生委員の力強いサポートを得ることができおり、地域情報等の伝達や安全面での協力、地域行事への参加等を得ている。職員は日常的な散歩など地域へ出る機会を活用して、声かけを行う等の地道な活動を継続させている。管理者や職員の多くは地域在住者であり、家族等が行事に参加協力している。</p>	職員一人ひとりには利用者と地域を結ぶ交流を視野に入れた活動ができているが、事業所全体での取組みとしては地域の一員として交流するまでには至っていない現状にある。職員は地域と交流を深める活動のアイデアを持っているので、職員の力を活かした活動に発展することに期待したい。事業所を地域住民に知ってもらい、認知症ケア等の理解や支援の方法を地域の人に向けて発信できる活動等の取組みを行って欲しい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 努力はしているが、地域の方に理解してもらうには至っていない。運営推進会議に参加される民生委員の方等のご意見を参考して、地域貢献につなげていく。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 参加されている方の意見や要望を受けて、出来る限りサービス向上にいかしていきたい。	
			(外部評価) 市担当者、地域包括支援センター職員、民生委員の参加があり、事業所の報告や取組みを伝えている。参加者からは地域での役割を活かした意見交換が行われており、事業所が抱える課題等へのアイデアや意見が気兼ねなく話し合うことができている。会議中で得た地域情報等を運営に反映させサービス向上につなげている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市役所や地域包括支援センターの方に、他の事業所の行っている情報等を聞き、ケア向上に努力していく。	
			(外部評価) 推進会議への参加を得ながら運営の実情を伝え、情報を発信してもらっている。地域包括支援センターの取組みは積極的で、関わりが深い。地域包括支援センター主催の地域事業所連絡会では他事業所との交流があり、互いの運営状況や課題について話し合う機会が設けられている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束をしない様に努めて、ベットからの転倒の心配がある利用者にはベット柵を使用している。	
			(外部評価) 事故の危険性が高い利用者が居室で過ごす限られた時間帯に、安全面を考慮しベッド柵を使用することもある。職員は申し送り時等に身体拘束に関する話し合いをしたり、情報を共有している。玄関やその他外に通じる出入り口への施錠はなく、自由に行き来することができる。外出したい利用者の状態について検討したり、同行することで対応することができる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員の研修等に参加をして学ぶ機会を増やして理解を深め防止の徹底を努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 今後、必要に応じて検討する様に考えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 事業所のケアについての取り組みについてご家族が来所されて時は、十分な説明をして理解してもらっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 常に利用者、家族等のご意見を聞き、ケアに反映できる様に、カンファレンスをして職員に徹底する様にしている。	
			(外部評価) 利用者には日常の会話の中で意向を聞いている。家族等とは面会時や電話連絡等の機会を活用して意見や要望を聞いている。管理者は利用料金等の説明に関しては特に詳細な説明が求められていると実感しており、実際に意見や要望に対してわかりやすい説明を行い理解してもらえるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 意見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	(自己評価) 職員の意見を言える様な環境づくりに努め、しっかり 意見交換をする様にしている。	
			(外部評価) 運営上の連絡事項や新規採用者がある時等、状況に応 じてミーティングの機会を設けている。管理者もシフ トに入っているため、実情について理解しており、職 員の業務上の意見等を聞いている。現場では介護経験 の長い職員が中心となってスムーズな連携を高めるこ とができています。事業所内で解決しにくいハード面の 改修等の運営課題については、法人代表者に直接相談 している。	職員一人ひとりには前向きな介護感を持ち、遠方への外 出支援の機会を設けたい、利用者個々に関わる時間を 増やしたいと、アイデアを膨らませている。職員のアイ デアを活かし、運営に反映することはやりがいや愛着 感を高め、よりよいケアへつながることが期待でき る。職員の意見交換や学びの機会を定期的に設け、必 要に応じ法人代表者に協力を依頼するなどの具体的な 取組みをしてほしい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めて いる	(自己評価) 職員個々の力量を踏まえて、各自がやりがいを感じら れる様にローテーションを組む様にしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレーニ ングしていくことを進めている	(自己評価) 一人ひとりのケアの力量を把握して、働きながら力量 を向上出来る様にローテーションを組む様にしてい る。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会をつくり、ネットワークづくりや勉 強会、相互訪問等の活動を通じて、サービ スの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 同業者との交流する機会が増やす為、事業所連絡会等 に参加して、意見交換等でサービス向上やケアの方法 を充実させる様に取り組んでいる。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳 を傾けながら、本人の安心を確保するた め関係づくりに努めている	(自己評価) 本人の安心を確保する為に、常に話をしっかり聞き、 信頼関係の充実させる様に努める。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 来所時に、家族の要望をしっかりと聞き、家族との信頼関係の充実をはかる様に努める。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 他のサービス利用ケースはありません。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者は一人ひとり、生活習慣や馴染みの物も違っており、それぞれに対応して関係を築く努力している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ケアを進めていく上で、家族の意見を聞きながら、家族関係を大切にする様に心がけている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会の方には、お部屋でゆっくり過ごせる様にしている。家族にも今までの生活習慣を伺い、馴染みの物を持ち込んでもらう様にしている。	
			(外部評価) 通い慣れた美容室の利用等の支援を行っている。事業所に入居してからも大切にしてきた関係が継続できるよう、また新たに利用者同士の関係が良好になるよう支援に努めている。面会者には温かな受け入れを行うよう心がけられ、ゆっくりと過ごしてもらえよう配慮している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 皆さで楽しく過ごす時間を多く設けて、気の合う方同士で過ごせる場面を作る等、利用者同士の関係がうまくいく様に職員が動き、かけ橋になれる様に支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じて相談できる様にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 常に声かけをして、把握に努める。普段より言葉や表情を見て、意見を推測している。	
			(外部評価) 生活の中で希望や意向を聞いている。具体的に意向を伝えることが困難な状況にある利用者も多いが、情報を持つ家族等にこれまでの生活歴や暮らし方の意向について伺ったり、日常のコミュニケーションを通じて表情等から気持ちをくみ取ることで把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 日々の会話の中で、少しずつ把握する様に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者は一人ひとりの生活リズムを理解して、普段の表情や動作を観察して、本人の現状把握する努力する。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者の担当者と本人、家族の意見を踏まえて、ケアプランを作成している。	
			(外部評価) 基本的に3か月毎に見直しを行い、利用者や家族意見を踏まえて担当職員が原案を作成し、管理者や計画作成担当者が確認し介護計画書を作成している。生活課題について担当職員がモニタリングを実施し、評価を行っている。	担当職員が原案を作成することでより現状に沿った意見やアイデアが反映できる内容となっているが、課題に基づいた実施記録等根拠あるモニタリングへつなげる取組みが必要である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個々の食事、排泄等の身体状況、気づきについて記録して職員全体で情報を共有して、ケアプランの見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者一人ひとりのニーズに合わせた柔軟な対応する様に努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) あまり出来ていない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりの日頃から気になる事があれば、月 2回の往診時に対応している。来所時に家族等に要望 があれば、医師に伝えて適切な対処が出来る様に している。	
			(外部評価) 利用者は母体の医療機関をかかりつけ医とし、月2回 の往診と週1回の訪問看護の利用ができる。母体の医 療機関は事業所近隣にあり、24時間体制での医療連 携を確実なものとしており、利用者や家族等、職員の 安心感が高い。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 利用者一人ひとりの日頃から気になる事があれば、週 1回の往診時に対応している。医師と連携して適切な 対処が出来る様にしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、頻繁に職員が様子を見る様している。退 院時には、ホームで安心して過ごせる様に努めてい る。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の意向を踏まえて、普段より急変時等 には、家族や主治医と最善方法を考えている。	
			(外部評価) 事業所で看取りケアは実施されていない。利用時に説 明され、意向を把握している。状態の変化に応じ、利 用者や家族等と話し合いの機会を持ち、協力医療機関 と連携し今後の支援について検討している。重度化し た場合、病院や他事業所の利用等相談に乗ることが できている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変等があれば、医師に容態を詳しく伝え、初期対応する様にしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 全職員が災害に備えて、慌てず対応できる様に努めている。地域との協力体制を築く上で、民生委員の方と意見を聞き、地域交流を進め、信頼関係を築く様に努めている。	
			(外部評価) 年2回避難訓練を実施し、消防署立ち合いにて具体的な助言や安全な移動について知識を得ている。特に初期消火等の重要性をアドバイスされており、今後の訓練に活かしたいと管理者は考えている。また、事業所所在地は津波被害の危険性が高い土地にあり、対策について検討された。地域の避難先である小学校は近いが、実際の災害時を想定すると利用者全員の安全な移動が困難であるため、緊急時に地域の協力が得られるよう管理者が地域の関係者に事業所の所在や利用者の状況について説明を行うと共に、事業所が倒壊した場合は、利用者等へ食糧等物資が提供してもらえるよう地域の代表者とも話し合いができた。	訓練で得た具体的な助言を元に災害時の初期対応の方法や、安全な移動方法を全職員が習得していけるよう繰り返し様々な災害設定で取り組んで欲しい。安全に移動できるよう事業所内の環境整備に努め、自主点検等を定期的に行うことも大変有効的な取組みになる。また夜間等の職員が少ない時間帯の不安を軽減するため、話し合いや地域協力者を確実に得られる取組みを早期に行って欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 要望を聞き、出来る範囲で対応してプライバシーの確保に注意する様に努めている。	
			(外部評価) 入浴や排泄介助等特に羞恥心への配慮が必要な場面を含め、大声であからさまな介助や声かけにならないよう職員は配慮している。利用者を大切に思う職員の気持ちはあたたかく、事業所の信条にうたわれる品格ある職員像を目指した対応が心がけられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 出来る限り支援しているが、難しい面もある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 起床、朝食時間は、利用者の希望に沿える所は、添う様に対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 出来る限り、衣類等は一緒に購入する様にしているが、難しい面もあるので、職員が衣類を購入する時は本人の好みを踏まえて選ぶ事もある。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 楽しい雰囲気づくりに心がけているが、準備や食事、片付けは介助が必要な方が多く一緒に行えていないのが現状である。	
			(外部評価) 法人内の栄養士が献立を作成している。調理専属職員がユニット毎に配置されている。利用者の誕生日等の機会には食べたいもののリクエストに応じ、特別な雰囲気を楽しんでいる。また食習慣や好みに沿って朝食にパン食の日やうどんの日を設けることで、楽しみにつながる支援ができている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの状態に応じて摂取量を考えながら支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 声かけをしてるが、拒否される方もおられて、全員出来ているとは言えないが、支援する様に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を活用し、自立している方以外は、時間を決めてトイレで排泄をしてもらう様にしている。	
			(外部評価) 重度化に伴いオムツの使用が必要な利用者も多いが、状態に応じてトイレでの排泄介助を行い、状態の維持や自然排泄へつながるよう支援している。排泄チェック表を用い、排泄パターンをつかむことで不快な思いを与えないよう対応することができている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分量、根菜類を十分取れるようにしている。便秘薬を服用しているが、医師の処方を守り常に適量を服用する様に取り組んでいる。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 午後、曜日を決めているが、拒否等がある時は、曜日を変更して出来る限り本人の希望に合わせて支援している。	
			(外部評価) ユニット毎に個別浴槽を備え、週2階の利用を基本に利用者の希望を伺いながら入浴支援している。状態に応じシャワー浴の利用のみとなっても、安心安楽に入浴を楽しんでもらえるよう座ってシャワー浴ができるシステムを導入した。入浴が苦手な利用者にも、無理強いすることなく、タイミングや誘い方を工夫しながら入浴できるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 生活リズムを整えて、安眠、休息の支援している。	
			(外部評価)	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員が使用している薬の目的や副作用等を理解して、服用時には、手渡しで最後まで確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の生活歴や力を活かせる事があれば行ってもらい、日々、生きがいを持って生活出来る様に支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ホーム周辺の散歩や買い物に出かけ、近所の人に挨拶やお話をして、地域の中にいると実感できる様に支援している。	
			(外部評価) 運営推進会議で得た地域行事の情報を活用して、祭りや季節の風景に触れている。現在外出支援は徒歩圏内が中心であり事業所周辺での外出になっている。日常的に散歩に出かけることで利用者の気分転換が図れるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 職員と一緒に外出時には、本人が支払い、買う事を実感してもらえる様にしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の希望があれば、電話や手紙を出せる様に支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 民家改造型のホームなので、利用者の方に落ち着いて生活されている。利用者の方の使い慣れた物を取り入れて居心地よく過ごされている。 (外部評価) 住宅を改修したユニットと、新設されたユニットがあり、それぞれに雰囲気が違った趣がある。玄関もそれぞれにあるが、廊下で棟が繋がりに自由に行き来できる。排泄物等の取り扱いに配慮し、不快な臭気に気をつけている。季節柄感染対策に配慮しており、二次感染等に対する注意がされ、居心地よく過ごしてもらうように努めていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 和室やベランダに椅子を置き、独りでくつろいだり、お茶を飲んだり、利用者同士のお話げ気軽に出来る様になっている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 施設の壁や玄関に、利用者の方が季節を感じられる様に写真や飾り付けをしている。 (外部評価) ベッドとタンスが備えられており、馴染みのものを持ち込み安心して居室を利用してもらえるように声かけしている。自分で身の回りの整頓ができる利用者には、できることを継続してもらう支援ができています。利用者は家族写真や家具等、利用者がそれぞれに思い入れのあるものを持ち込み、居心地良いスペースとして生活している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手摺りや施設内はバリアフリーになっており、安全な環境で自立した生活が送れる様になっている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103466
法人名	有限会社 ケイ・エム・エス
事業所名	グループホーム さしもも
所在地	松山市高岡町617番地
自己評価作成日	平成 28年 2月 12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 3月 3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は、毎朝のミーティングに「介護のコツ10カ条」「1日の五心」を唱和し、日々のケアの向上につなげている。午前中は、近隣の安全な道路を散歩され、午後より、レクリエーションの一環として、健康体操を実施している。身体の体操から、声を大きく出して発声して頂き、その後は職員が各々考えた塗り絵、すごろく、工作など利用者とともに楽しく行っている。ホーム近くの協力医療機関とは24時間体制での連携を取り、緊急時にも対応でき往診もある。また歯科医とも協力関係を築いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は民家を改修したユニット①と新築されたユニット②で構成される。協力医療機関でもある母体医療機関が近くにあり、定期的な往診による健康管理のほか、体調の変化に依り24時間連携が取れる。日々の健康管理とあわせ確実な医療連携は、利用者や家族、勤務する職員にとっても安心感が高い。民家を改修したユニットの浴室はこの度シャワーシステムをリフォームし、より利用者にとって生活が楽しみになるよう改修がされた。職員はそれぞれに介護経験も違うが、それぞれに利用者のことを思い、あたたかい気持ちで接している。次年度には新人職員が雇用され、今後の成長や職員のアイデアを活かした運営への意欲的取組みが楽しみである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム さしもも

(ユニット名) ユニット②

記入者(管理者)

氏名 泉内 勝

評価完了日 平成 28年 2月 12日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念に基づいて実践している。	
			(外部評価) 事業所理念は開設時に「信条」として掲げ、事業所内に掲示し共有している。職員は就業前に唱和し信条を理解することができる。利用者の生活を支えるために、品位ある職員像を目指し、理念を運営へとつなげている。事業所では職員同士の調和を大切にしていきたいと考えている。職員は信条に沿った日頃の業務を振り返ることが個々にできている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 回覧板等のつながりや散歩時挨拶立ち話等をしている。	
			(外部評価) 地域の民生委員の力強いサポートを得ることができおり、地域情報等の伝達や安全面での協力、地域行事への参加等を得ている。職員は日常的な散歩など地域へ出る機会を活用して、声かけを行う等の地道な活動を継続させている。管理者や職員の多くは地域在住者であり、家族等が行事に参加協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 現実には、あまり出来ていない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ホームの生活の様子や現状報告等を行い、意見・情報を得る様にしている。	
			(外部評価) 市担当者、地域包括支援センター職員、民生委員の参加があり、事業所の報告や取組みを伝えている。参加者からは地域での役割を活かした意見交換が行われており、事業所が抱える課題等へのアイデアや意見が気兼ねなく話し合うことができている。会議中で得た地域情報等を運営に反映させサービス向上につなげている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議等を活かして、意見や要望を受けてサービス向上につなげていく。	
			(外部評価) 推進会議への参加を得ながら運営の実情を伝え、情報を発信してもらっている。地域包括支援センターの取組みは積極的で、関わりが深い。地域包括支援センター主催の地域事業所連絡会では他事業所との交流があり、互いの運営状況や課題について話し合う機会が設けられている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 転倒防止の為、家族合意の元に実施しているが、自立支援を目指している。	
			(外部評価) 事故の危険性が高い利用者が居室で過ごす限られた時間帯に、安全面を考慮しベッド柵を使用することもある。職員は申し送り時等に身体拘束に関する話をしたり、情報を共有している。玄関やその他外に通じる出入り口への施錠はなく、自由に行き来することができる。外出したい利用者の状態について検討したり、同行することで対応することができている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 定期的なカンファレンスと朝・夕のミーティングを行い利用者1人ひとりの事を理解し、虐待防止の徹底に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 今後、必要に応じて対応を検討している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、可能な限りケアに関する考え方や取り組みについて説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族には何でも話してもらい様に気を付けている。 (外部評価) 利用者には日常の会話の中で意向を聞いている。家族等とは面会時や電話連絡等の機会を活用して意見や要望を聞いている。管理者は利用料金等の説明に関しては特に詳細な説明が求められていると実感しており、実際に意見や要望に対してわかりやすい説明を行い理解してもらえるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) カンファレンス、ミーティング等で意見を聞き、職員同士のコミュニケーションを図る様にしている。	
			(外部評価) 運営上の連絡事項や新規採用者がある時等、状況に応じてミーティングの機会を設けている。管理者もシフトに入っているため、実情について理解しており、職員の業務上の意見等を聞いている。現場では介護経験の長い職員が中心となってスムーズな連携を高めることができている。事業所内で解決しにくいハード面の改修等の運営課題については、法人代表者に直接相談している。	職員一人ひとりには前向きな介護感を持ち、遠方への外出支援の機会を設けたい、利用者個々に関わる時間を増やしたいと、アイデアを膨らませている。職員のアイデアを活かし、運営に反映することはやりがいや愛着感を高め、よりよいケアへつながることが期待できる。職員の意見交換や学びの機会を定期的に設け、必要に応じ法人代表者に協力を依頼するなどの具体的な取り組みをしてほしい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 出来る限り利用者の状態やペースに合わせたローテーションを組んでいる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修等に出来る限り参加する様にしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修等に積極的に参加し、意見交換の場を作る様にしている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者の意見を傾聴し、かつ尊重する様に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族等の声を傾聴し、良い関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 福祉用具以外は今の所、他のサービス利用はない。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 常に家族であるという意識を持ち、人生の大先輩として尊重して、いい関係を築く様に心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族と同じ想いで双方の関係を良好に持つ様にしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 談話室等でゆっくり過ごして頂いたり、イベント等の写真などを見たりしている。	
			(外部評価) 通い慣れた美容室の利用等の支援を行っている。事業所に入居してからも大切にしてきた関係が継続できるよう、また新たに利用者同士の関係が良好になるよう支援に努めている。面会者には温かな受け入れを行うよう心がけられ、ゆっくりと過ごしてもらえよう配慮している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者1人ひとりを把握して、レクリエーション等が楽しく過ごせる様に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じて相談できる体制である。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の中で利用者の事を把握して、連絡ノートを活用して、本人本位の生活ができる様にしている。	
			(外部評価) 生活の中で希望や意向を聞いている。具体的に意向を伝えることが困難な状況にある利用者も多いが、情報を持つ家族等にこれまでの生活歴や暮らし方の意向について伺ったり、日常のコミュニケーションを通じて表情等から気持ちをくみ取ることで把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活・会話やアセスメントシート等で把握する様に努力している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) バイタルチェック、排泄パターン等で把握する様に心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月カンファレンスを行い、朝夕ミーティングや連絡ノートの活用など現状にあった介護計画を作成している。	
			(外部評価) 基本的に3か月毎に見直しを行い、利用者や家族意見を踏まえて担当職員が原案を作成し、管理者や計画作成担当者が確認し介護計画書を作成している。生活課題について担当職員がモニタリングを実施し、評価を行っている。	担当職員が原案を作成することでより現状に沿った意見やアイデアが反映できる内容となっているが、課題に基づいた実施記録等根拠あるモニタリングへつなげる取組みが必要である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日中、夜間共に経過記録、業務日誌に記録し、職員間で情報を共有している。又、それに基づき介護計画の見直しに活かして実践している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) グループ内の他事業者を利用する事は可能である。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 現実には、あまり出来ていない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力医・かかりつけ医の受診は本人の希望に応じて対 応している。	
			(外部評価) 利用者は母体の医療機関をかかりつけ医とし、月2回 の往診と週1回の訪問看護の利用ができる。母体の医 療機関は事業所近隣にあり、24時間体制での医療連 携を確実なものとしており、利用者や家族等、職員の 安心感が高い。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 利用者一人ひとりの日頃から気になる事があれば、週 1回の往診時に対応している。医師と連携して適切な 対処が出来る様にしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の意向を踏まえて、普段より急変時等 には、家族や主治医と最善方法を考えている。	
			(外部評価) 事業所で看取りケアは実施されていない。利用時に説 明され、意向を把握している。状態の変化に応じ、利 用者や家族等と話し合いの機会を持ち、協力医療機関 と連携し今後の支援について検討している。重度化し た場合、病院や他事業所の利用等相談に乗ることが できている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 24時間 主治医と連絡できる体制を取っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 水やカンパンを常備している。現状では地域との協力体制がとれていない。	
			(外部評価) 年2回避難訓練を実施し、消防署立ち合いにて具体的な助言や安全な移動について知識を得ている。特に初期消火等の重要性をアドバイスされており、今後の訓練に活かしたいと管理者は考えている。また、事業所所在地は津波被害の危険性が高い土地にあり、対策について検討された。地域の避難先である小学校は近いが、実際の災害時を想定すると利用者全員の安全な移動が困難であるため、緊急時に地域の協力が得られるよう管理者が地域の関係者に事業所の所在や利用者の状況について説明を行うと共に、事業所が倒壊した場合は、利用者等へ食糧等物資が提供してもらえるよう地域の代表者とも話し合いができた。	訓練で得た具体的な助言を元に災害時の初期対応の方法や、安全な移動方法を全職員が習得していけるよう繰り返し様々な災害設定で取り組んで欲しい。安全に移動できるよう事業所内の環境整備に努め、自主点検等を定期的に行うことも大変有効的な取組みになる。また夜間等の職員が少ない時間帯の不安を軽減するため、話し合いや地域協力者を確実に得られる取組みを早期に行って欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉をかけ対応に気配りして人格を尊重している。	
			(外部評価) 入浴や排泄介助等特に羞恥心への配慮が必要な場面を含め、大声であからさまな介助や声かけにならないよう職員は配慮している。利用者を大切に思う職員の気持ちはあたたかく、事業所の信条にうたわれる品格ある職員像を目指した対応が心がけられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) レクリエーション等を本人の希望に添って参加する様に心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その人らしい時間の過ごし方を大切にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自己決定に基づく更衣等を支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 歩行可能な利用者には、配膳・下膳をしてもらう様にしている。	
			(外部評価) 法人内の栄養士が献立を作成している。調理専属職員がユニット毎に配置されている。利用者の誕生日等の機会には食べたいもののリクエストに応じ、特別な雰囲気を楽しんでいる。また食習慣や好みに沿って朝食にパン食の日やうどんの日を設けることで、楽しみにつながる支援ができている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 1人ひとりに対応した食事形態で提供している。水分も声かけし適度にとってもらっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 1人ひとりに対応した口腔ケアを実施している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 決まった時間にトイレ誘導を行っている。	
			(外部評価) 重度化に伴いオムツの使用が必要な利用者も多いが、状態に応じてトイレでの排泄介助を行い、状態の維持や自然排泄へつながるよう支援している。排泄チェック表を用い、排泄パターンをつかむことで不快な思いを与えないよう対応することができている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便・排尿チェック表を使用し支援している。水分を大目に取ってもらったり、体操等をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴剤を入れ楽しんで頂いている。体調不良等で入浴出来ない場合は日を変更して入浴してもらっている。	
			(外部評価) ユニット毎に個別浴槽を備え、週2階の利用を基本に利用者の希望を伺いながら入浴支援している。状態に応じシャワー浴の利用のみとなっても、安心安楽に入浴を楽しんでもらえるよう座ってシャワー浴ができるシステムを導入した。入浴が苦手な利用者にも、無理強いすることなく、タイミングや誘い方を工夫しながら入浴できるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 生活リズムを整え良眠できる様に心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 飲み忘れ、飲み間違いがない様に1人ひとりの名前を確認し、服薬して頂いている。又、薬の変更があった場合は連絡ノートに記入している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 季節ごとのイベント等を行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 施設の周辺を徒歩や車椅子で散歩をしている。 (外部評価) 運営推進会議で得た地域行事の情報を活用して、祭りや季節の風景に触れている。現在外出支援は徒歩圏内が中心であり事業所周辺での外出になっている。日常的に散歩に出かけることで利用者の気分転換が図れるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の希望にて買い物をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望にて電話や手紙のやりとりをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節感、生活感を取り入れ、居心地よく過ごせる様にしている。	
			(外部評価) 住宅を改修したユニットと、新設されたユニットがあり、それぞれに雰囲気が違った趣がある。玄関もそれぞれにあるが、廊下で棟が繋がりに自由に行き来できる。排泄物等の取り扱いに配慮し、不快な臭気に気をつけている。季節柄感染対策に配慮しており、二次感染等に対する注意がされ、居心地よく過ごしてもらうように努めていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 談話室等を利用して頂ける様に心がけている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家で使用していた物を持ち込んだり、写真等を飾ったりして安心して過ごせる工夫をしている。	
			(外部評価) ベッドとタンスが備えられており、馴染みのものを持ち込み安心して居室を利用してもらえるように声かけしている。自分で身の回りの整頓ができる利用者には、できることを継続してもらう支援ができています。利用者は家族写真や家具等、利用者がそれぞれに思い入れのあるものを持ち込み、居心地良いスペースとして生活している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) バリアフリーにて安全・自立した生活を支援している。	